备

艛

治療

獺ニ對スル「レプロール」及ビ沃度「ナトリウム」注射ニ就テ 附 癩 患 者 治 驗 數 例

岡山醫科大學皮膚科泌尿器科教室(主任皆見教授)

大 道 直 一

古今東西ヲ問ハズ獺ニ關スル診斷及ビ治療方面ニ於テハ, 既ニ諸學者ノ幾多貴重ナル研究業績ノ發表アリ. 而カモ尚ホ癩ノ完全治癒ニツキテハ, 皆等シク至難トスル所ナリ.

我邦ニ於ラモ、旣ニ,200年前,大楓子ノ實ヲ癩治療薬トシラ用ヒタリ. 其間. 歐米ニ於ラ幾多ノ經驗ト研究ト相待チラ、近代ニ至リラハ、大楓子油ョリ,「エチールエスラル」ヲ製シ、或ハ沃度療法、最近ニ至リラハ雪狀炭酸療法モ稱ヘラレ、實ニ整シキ新知見アルニ拘ラズ,依然トシラ眞ニ根治薬トシラ推獎ニ價サルベキモノトラ殆ドナシ、嘗テ、土肥博士曰ク、大楓子油ョリ出デシモノハ大楓子油ヲ出デズト、コレ實ニ至言ト云フベシ.

大楓子油ノ「エチールエステル」側ニツキテハ、米田氏ハ、Dean、豐田氏等ノ報告ノ如タニ奏数スルモノニ非ズト雖モ、從來用ロラレタル大楓子油ノ注射ニ比スレパ、一段ノ進步シタルモノト看做シ、氏ハ「エクルモ」チ創製シタリ、

機が沃度ニ過敏ニシテ殊ニ結節型ニテハ,其反應强度ナルハ, 転畑ノ事實ナリ. 沃度チ線治療薬トシテ用ヒルノ可否ニツキテハ,內外諸家ニヨリテ種々論議サレシモ、未ダ節着貼ナ見ズ. 最近青木氏ノ本療法ニ関スル詳細ナル報告ナ見ルニ,沃度療法ノ奏数セザルハ, 全ク之が試験ニ供セル沃度製剤ノ種類, 殊ニ其分量, 治療間隔位ニ適用法等ニ區々よル羨異アルモノニシテ最初ニ各患者ニ對スル適當ナル反應チ知り, 之テ基準トシテ任意ニ,且少適當ニ此反應チ治療上ニ利用スル用意チ缺キシ輕卒ニ其非チ歸スベシト云へり.

治療 方法

余い最近吾が教室ニラ治療セシ幾多ノ癩患者中, 比較的, 臨牀的ニ輕快以上ノ成績ヲ擧ゲ得シモノ五例ヲ選ピテ, 其治療經過ニツキラ述ベント欲ス。卽チ沃那ト「レプロール」トノ合併療法ニヨリシモノ三例, (斑紋麻痺癩二例, 結節瀬一例), 大楓子油ー例(結節癩)及ピ「エクルモ」一例(斑紋癩)ナリ。

沃度「ナトリウム」へ5% 水溶液トシテ、叉「レブロール」へ1% 水溶液トシテ鸛レモ静脉内注射テ行セ、縁ニ

「レプロール」の青木氏ノ毅表ニ従ヘパ、體重1 瓩ニツキテ1cc.ノ割ニ注射シテ可ナルモ、念ノタメ 0.1cc.ヨリ臆用シテ,3日ノ間隔ニテ注射シ,其副作用ノ如何チ標準トシ,漸次増量シテ普通量ニ及ペリ・而シテ各例ニ用ロシ1 同量ハ,最小5cc.最高30cc 注射同數ハ最高34 回,最低23 回,平均29 回ニシテ、各例ノ注射線量ハ,最低200cc 最高462cc.ニ及ペリ.

沃那甲其反應程度ヲ顧慮シ, 2—10cc ニ及ビ, 関隔 ハ ィーロ 日ナリ. 注射関数, 最低 1 同最高 10 同ナリ. 個個ノ注射線量ハ, 最少 2cc. 最高 65cc. ナリ.

青木氏ニョレバ「レブロール」注射最高 36 间,684cc. ニシテ, 1 同量 4—56cc. ニ及ビ, 沃那ハ最高 12 间,各 1 同量 2—10cc. ナリ.

「エクルモ」ハ之チ臀筋内=注射シ,隔日=1回 0.5cc. □ り始メテ, 2cc. =及せ注射同數 75回, 注射總量 132.7cc.トス.

大楓 予油 ハ 之 モ 腎筋内注射 ニ シ テ, 隔 日 ニ 1 回 0.5cc. ヨ リ 始 メ テ 4cc. ニ 及 ピ, 注射回數 53 回, 注射總量 162cc. トス.

症 例

第一例

小 ○ 男, 24, 香川縣人, 初診大正 14 年 4 月 19 日, 診斷, 結節網位ニ斑紋麻痺鴉·

既往症. 約三箇年前ヨリ手,胸部,腹部ニ鞭紋生沙,同時ニ結節チ顔面ニ見ル.

現 症. 前膓屈側ノ中央部ニニ三ノ斑紋存シ顔面ニテハ,所々ニ殊ニ頰部ニ著明ナル拇指頭大ノ結節アリテ獅子面テ呈ス. 胸部,腹部ニハ數多ノ斑紋アリ.兩側尺骨神經肥厚ス. ▽氏反應陰性.

治療及ビ經過. 最初二大楓子油ナ 0.5cc. 当 リ臀筋内二注射シテ, 漸次增量シ 3cc. 二及ビ, 8 回ノ注射チ施ス. 注射中ハサシタル副作用モ忍メズ. 麻痺感斑紋結節等依然トシテ現状チ保ツ. 其後沃那ト「レプロール」併合療法ニ移ル. 沃那 2cc. 第 1 同注射後. 5 時間位ニシテ, 不快感, 全身倦怠チ覺エシモ一開日ニシテ此自覺症ハ自然ニ治癒セリ. 尚ホ沃邪注射後一兩日ニシテ左前膊ノ風側ニ新紅斑チ費生シ, 漸次隆起シテ丘疹状トナリ, 間モナタ同部ニ水疱チ形成シ, 二三日後途ニ糜爛スルニ至レリ. 本患者ハ斯ク, 沃那ニ對スル反應强キチ以テ, 之チ中止シ, 爾後ハ「レプロール」ノミノ注射チ續行ス. 「レプロール」注射 34 同マデハ, サシタル副作用モ認メズ. 其後糜爛面ハ再ビ漸次ニ乾燥シ, 顔面ノ結節ハ殆ンド吸收サル. 注射周數 34 同(兩側チ合シテ)ニシテ, 静脉壁ノ硬化チ認メタレパ, 途ニ注射中止ノ止ムナキニ至ル. 技ニ於テ再ビ大楓子油ノ臀筋内住射ニ移り 1cc. 当り始メ, 潮次増量シテ 1.5cc. 二及ビ, 今日二重ル. 顔面二多數存在セシ結節ハ今ヤ全ク吸收サレ盡シテ, 殆ンド其影チ認メズ. 斑紋部モ其後大イニ消認シ, 鈍膨底モ精々良好トナレルモ, 未ダ全癒ノ城ニハ連セズ. 内服藥ハ初メヨリ「サリチル酸ナトリカム」ニテ, 毎日 1.5 五チ投奥ス. 「レプロール」注射機同數 34 回, 注射機量 462cc. ナリ. 沃那ハ 1 回往射ノミ. 大楓子油注射ハ前後 14 回, 機量 19cc. ナリ. 治療期間 5 箇月. 本例ニテー時症状態化セルハ, 沃那ノ結果ニシテ, 「レプロール」/ 作用ニ非ザルハ, 其後續キテ後者チ連用セルモ, 悪化症状ナキチ以テ明ナリ.

第二例

小 〇 女, 18, 岡山縣人, 初診大正 14年9月24日, 診斷, 斑紋麻痺粮

既往症. 約三年前ョリ、開肘及大腿ノ内側ニ、麻痺感アル斑紋チ生ジ令日ニ至ル.

現 症・ 左右前膊ノ伸屬側、左右大腿ノ外側ニ地圖様ノ斑紋テ認メ、痛感ナシ、尺骨神經兩側共肥厚シ、ワ 氏反應陰性ナリ、鼻汁ノ癩菌モ陰性ナリ、

治療及經過. 内服ニハ初メ撒曹チ 1.5 瓦一日量トシテ投奥シ,後ニハ「レブロール」15 瓦チー日量トシテ持續 センム. 注射ハ初メ大楓予細ノ臀筋内注射ナ行に、関數 40 同總量 128cc. 行にシ後「レブロール」ト沃那ノ合併療法 ニ巻ル. 「レブロール」注射 9 同, 沃那 5 同ノ時紅海ハ褪色落屑シ, 稍々輕快チ鑿ム. 無痛感ハ呑ス. 「レブロー ル』23 回,沃那 9 回ニシテ静脉壁硬化ノ症狀チ認メシ故ニ注射チ中止ス、其他ノ副作用ヶ認メズ、其後直チニ大 楓于油ノ再注射チ始メ今日ニ至ル、今日ニテハ、斑紋ハ殆ド消褪シ、麻痺感モ大イニ軽快シタリ、「レブロール」 注射回數 23 回、注射總量 200cc. 1 回量最高 27cc.ナリ、沃那 9 回 54cc.ニシテ大楓子油總量 129cc.ナリ、治療期 間 7 箇月.

第三例

野 〇 男、20、岡山縣人、初診大正14年1月31日、診斷、斑紋織竝ニ兩側下腿ノ天疱瘡・

既往症. 大正13年11月頃ヨリ上下肢ニ無痛性ノ水疱ヲ生ジ, 途ニ潰瘍ニ陷レリ.

現 症. 阿側下腿ニ豆大乃至鷄卵大ノ水疱アリ. 且ツー箇ノ鷄卵大ノ境界明割ナル紅色ノ潰瘍面アリテ, 其部ハ知覺障碍アリ. 且背部ニ種々ノ大サノ斑紋アリテ尺骨神經兩側共ニ肥厚ス.

治療及經過. 内服藥の撒曹1日1.5 瓦ナリ. 大楓干油ノ臀筋内注射494.5cc. 3 箇月間 = 135 同注射チ行セシニ遺瘍の表皮形成チ呈セルモ其部ノ知覺麻痺の残レリ. 其後直チニ「レブロール」ト沃那ノ併合療法ニ移ル.「レブロール」注射31 同總量335cc. 之ニ加ヘテ沃那10 同 65cc. ナリ. 療法中ハ胃腸障碍其他ノ副作用チ認メズ.「レプロール」注射31 同, 沃那10 同ニシテ静脉監硬化ノ症状チ認メン故ニ, 直ニ注射チ中止シ, 再ピ大楓干油ノ臀筋内注射ニ移り, 6 同, 95cc. 注射シ, 今日ニ至ル. 天疱瘡部ハ全部受疹吸收サレ, 極極度ノ知覺鈍麻チ残スノミニシテ, 一般症状ハ健人トノ相違チ認メズ. 治療期間1年3 箇月ナリ.

第四 例

橘 ○ 女, 47, 岡山縣人, 初診大正 14 年 10 月 18 日, 診斷, 斑紋癩.

既往症. 約5箇年前ニ右側大腿外側ニ小兒手掌大ノ知覺鈍麻部ヲ覺ェ、尙約3年前ヨリ、左前膊及臀部ニ斑紋ヲ生む、今日ニ至ル.

現 症. 左前膊ノ屈側腕関節ノ附近ニ小判大ノ斑紋及臀部ニ胡桃大ノ斑チ見,全部ニ輕度ノ知覺麻痺アリ. 尺骨神徑へ兩側共肥厚ス. ロ氏反應陰性, 環境(鼻汁)陰性ナリ.

第五例

岡 〇 男, 60, 岡山縣人, 初診大正 14 年 3 月 16 日, 診跡, 結節癩.

既往症・ 約2箇年前ヨリ左側上膝部ニ次イデ顔面ニ及ベル瘙痒感ナキ襞疹ヲ生む、 醫治ヲ受ケシモ治セズ令 日ニ至ル・

現 症 輕度ニ隆起セル丘疹が兩側ノ上膊, 背部等ニ數多散在シ顔面ニハ多數ノ暗赤色ノ結節アリテ, 項部ニハ環状ノ丘疹テ見ル、結節ハ皮膚面ヨリ隆起シ, 豌豆大ヨリ蠶豆大ニ至リ, 之チ閥レヘニ彈力硬アリ. 知覺麻痺輕微ニ存ス. 兩側尺骨神經ハ肥厚ス. ロ氏反應陰性, 睾丸内ヨリ癩菌陽性, Pirquet 氏反應陽性ナリ.

治療及ビ經過 大楓子油ノ臀筋内社射チ 0.5cc. ヨリ始メ, 隔日ニ1 回宛行 t, 漸次量チ高メテ, 4cc. ニ及ブ. 其後 4cc. チ持續シテ前後計 129 回ノ注射チナス. 注射總量 ハ 162cc. ナリ. 注射中認 Δ ペキ副作用ナシ. 現今ニテハ, 結節の全り悄失シ, 一見健人トノ相違チ認メメ. 内服ニハ撤曹チ持續ス. 治療期間ハ 6 箇月ナリ.

結 論

癩ノ全豪ハ重大ナル問題ニシテ,而カモ之ヲ斷定シ得サルハ遺憾ナルモ,少クトモ

冾

寮

外見上健人ト異ナルナキ程度=迄治シ得タルハ、上述ノ諸例=就テ明ナルペシ. Dean 氏ノ提唱セル大楓子油ノ「エステル」ハ、始メ期待サレシガ如ク效果著シカラザルハ諸 學者ノ認ムルガ如シ、總テ癩ニ對スル治療薬ノ效果ハ、一朝一夕ニシテ斷定シ能ハザルモノニシテ、新薬ニ對シー時好影響ヲ認メラルルコトアリトモ、直ニ之ヲ信ズルヲ 得ザルモノナリ。我教室ニ於テモ「ヒドノカリン」、「ギノカリン」、「エクルモ」等ヲ使用セルモ特ニ優レリト思惟スル能ハズ。且治療ニ長時日ヲ要スル此疾患ニ對シ、高價ニ失スル嫌アリ、矢張、大楓子油或ハ「レブロール」ノ域ヲ脫スル能ハザルベシ。

沃那二對シ,癩ノ過敏性アルハ,旣ニ認メラレタル所ニシラ,之ヲ治療上ニ應用スルモ可ナルベシ.但シ第一例ニ於ラハ,1回ノ注射後全身及ど局所反應烈シク,遂ニ再ビ之ヲ使用シ得ザリキ.經驗例少ナキモ,斑紋癩ヨリモ結節癩が沃度劑ニ過敏性强キ威アリ.卽チ他ノ斑紋癩ニハ副作用ヲ殆ンド見ズ.

「レプロール」静脉内注射ハ、總テノ例ニ於テ、二十數囘注射後,兩側肘静脉ノ硬化ヲ 來シ、遂ニ注射ヲ續行スル能ハザリキ。其效果ハ、沃那注射ト加ヘラ多少見ルペキモ ノアリシカド、長ク治療ヲ續行シ得ザル缺點アリ。

内服藥ハ「レプロール」又ハ撤曹ヲ投與シ, 斑紋或ハ結節ニ對シテハ, 大楓子油「ラ ノリンパスタ」ヲ使用シタリ、多少ノ效アルモノノ如シ.

Paldrock 氏ハ癩ニ對シ雪狀炭酸療法ヲ推獎セシモ, 是ハ目下試驗中ナルヲ以テ, 後日報告ノ機アルベシト信ズ.

由來賴ヲ根絕セシムルハ隔離ノ外ナシトハ一般ニ唱ヘラルル所ナリ。而カモ我國ニ於テハ遺憾乍ラ,數萬ノ患者アリテ,公立療養所モ僅ニ,五箇所ニ過ギズ。收容力モ限定セラレアルヲ以テ,此處ニ總テノ患者ヲ樂シク生活セシムルコト不可能ナリ、故ニ大病院ニ於テハ,此憐ムベキ患者ニ對シ,注意シ乍ラ尠クトモ外観上治癒ノ程度迄治療スルハ,蓋シ止ムヲ得ザルモノアルベシ。

且外観上治癒セル者ニ於テハ,其傳染力モ Minimum トシテ可ナラン.

欄筆スルニ當り, 恩師皆見教授ノ御懇篤ナル御指導チ感謝ス. (15.5.20. 受稿)

主要文獻

1) 青木大勇,皮膚科祕尿器科雜誌, 第 23 卷, 第 4 號.

2) 青木大勇, 河付正之, 上川豐, 深町朋安, 皮膚科泌尿器科雜誌, 第 24 卷, 第 1 號, 第 2 號, 第 4 號.

3) 青木大勇, 皮膚科泌尿器科雜誌, 第 25 卷, 第 9 號.

4) 旭憲吉, 皮膚科泌尿器科雜誌, 第 23 卷, 第 1 號.

5) 土肥慶藏, 皮膚科泌尿器科雜誌, 第 23 卷, 第 5 號.

7) Paldrock, Dermat. Woch. Nr. 18, 1926.